

「社会を明るくする運動」 について」

小田原市立千代中学校

三年 関田 太河

僕は、「社会を明るくする運動」のことを知ったとき、最初は大人がやっている活動だと思っていました。でも調べてみると、僕ら中学生にも関係が深いことだと気づきました。犯罪や非行のない地域をつくることや、間違いをしてしまった人の立ち直りを支えることは、みんなが安心して暮らせる社会にするためにとっても大切なことだからです。

学校では時々、いじりからけんかになってしまうことがあります。大人から見れば小さなことかもしれませんが、それが続くと心に傷を残し、時には大きな事件につながってしまふこともあります。僕は、けんかをしている人がいたときにどうすればよいかかわからず、

「落ち着け」としか言えませんでした。しかし、その言葉のおかげで2人は冷静になり、けんかを止めることができました。たった一言でも、人の気持ちを変えることができるのだと思いました。もしそこで声をかけずに行ったら、けんかが続き、もっと悪い方向に進んでしまうかもしれません。だから、犯罪や非行をなくすためには、日常の小さな思いやりがとても大切だと思います。

一方で、すでに罪をおかしてしまった人のことを考えると、僕はとても難しい問題だと思います。ニュースなどで「再犯」という言葉を聞くと、「どうして同じことを繰り返してしまうのだろう」と疑問に思います。でも、もしその人が社会からずっと責められたり、居場所を失ったりしたら、立ち直すことはとても難しいのだと思います。僕が悪いことをして先生に怒られたとき、友達が「気にすんなよ」と声をかけてくれました。その声のおかげで沈んでいた気持ちが明るくなり、次は

やらないようにしようと思えるようになりま
した。誰にでも失敗はあります。その失敗を
繰り返さないようにするには、周りの人の支
えや信頼が必要なのだと思います。

地域でも、犯罪や非行を防ぐための取り組
みがあります。たとえば、「子ども見守り
隊」という活動があり、登下校の時間に地域
の人たちが立って見守ってくれます。最初は
「いなくても大丈夫」と思っていました。が、
学校で不審者の話を聞いたときは「いてよか
った」と思うようになりました。こうした地
域の温かい目があることで、悪いことをしよ
うという気持ちも減るのではないかと思いま
す。大人が子供を信じ、子供も大人を信じら
れるような関係が、犯罪のない社会づくりに
は欠かせないと感じます。

そして、立ち直ろうとする人にとっても地
域の受け入れがとても大切です。もし「一度
でも非行をした人はもうだめだ」と決めつけ
てしまったら、その人は自分を信じられなく

なり、また孤独になってしまいます。僕らも同じで、失敗してもやり直すチャンスがあるから努力できるのです。だから、地域全体で「がんばってほしい」「応援しているよ」という気持ちを持つことが必要だと思います。

僕は将来、大人になっても「人を信じる気持ち」を忘れないようにしたいです。犯罪や非行をゼロにすることは簡単ではありません。でも、周りの人の思いやりや信頼があれば、きっと少しずつ減らしていくことができます。そして、間違いをした人がやり直す姿を応援できる社会こそ、本当に明るい社会だと思います。

社会を明るくする運動は、決して特別な人だけが行うものではなく、僕ら中学生にもできることがたくさんあります。友達を思いやること。勇気を出して声をかけること。地域の人と協力すること。その積み重ねが、犯罪や非行のない安心できる地域をつくり、立ち直ろうとする人を支える力になると思います。